

# 第11回 縄文楽検定 中級 解答集

平成31年3月作成

テキストから84%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

- テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）  
 テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）  
 火焰土器の国：新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』（新潟日報事業社、平成21年4月刊行）。  
 日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 ガイドブック』（信濃川火焰街道連携協議会、平成30年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）  
 聖火台アピール宣言：「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」アピール宣言について  
 ※テキストⅠの（）内は、『火焰土器の国新潟』内のページ番号です。

No.	解	出典
1	c	テキスト外 文化庁の国指定文化財等データベースが参考になります。2019年3月現在、縄文時代の出土品のうち、北海道函館市著保内野遺跡出土土偶（「カックウ」）、山形県舟形町西ノ前遺跡出土土偶（「縄文の女神」）、青森県八戸市風張1遺跡出土土偶、新潟県十日町市笹山遺跡出土深鉢形土器、長野県茅野市棚畑遺跡出土土偶（「縄文のビーナス」）、同中ッ原遺跡出土土偶（「仮面の女神」）の6件が国宝に指定されています。
2	c	テキストⅠ-p5(136) aは津南町堂平遺跡出土の火焰型土器、bは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器、dは長岡市岩野原遺跡出土の火焰型土器です。
3	b	火焰土器の国-p33～40 ア～ウはいずれも長岡市岩野原遺跡出土です。ウは鶏冠状突起（鶏頭冠）が未発達で、口縁部に鋸歯状突起が付かず、文様も完成していないことなどから、成立段階に分類されます。一方、アとイでは火焰型土器として要素が揃っています。アは鶏冠状突起（鶏頭冠）が低く横長で、器形が寸胴ですが、イは鶏冠状突起（鶏頭冠）が縦に伸び、頸部がくびれた器形となっており、より新しい段階に分類されます。
4	袋	テキストⅠ-p10(141)、火焰土器の国-p28
5	(トンボ)眼鏡	テキストⅠ-p10(141)、火焰土器の国-p28 眼鏡(テキストⅠ)、トンボ眼鏡(火焰土器の国)、どちらも正解です。
6	鋸歯	テキストⅠ-p10(141)、火焰土器の国-p28 ひらがな解答は「きよし」が正解です(火焰土器の国p27)
7	d	テキストⅠ-p13(144)、火焰土器の国-p32
8	a	テキストⅠ-p16～17(147～148) bでは「スイトン状」ではなく「カマボコ状」、cでは「チクワ状」ではなく「ウドン状」になるのが正解です。また、底面には木の葉の跡や編み物の痕跡が残されていることがあります。
9	c	テキストⅠ-p25(156) aの十日町市野首遺跡は、現在最も復元点数が多い遺跡です。一方、長岡市馬高遺跡では復元点数9点で、意外にも少なめです。
10	b	テキストⅠ-p8(139)、テキストⅡ-p13、20、25 アは平成2年(1990)、イは平成11年(1999)、ウは平成18年(2006)、エは平成14年(2002)です。
11	c	テキストⅠ-p3(134)
12	c	テキストⅠ-p1(132)

13	ア:えぐり/イ:左	テキスト I -p11(142) アは「抉り」・「えぐり」を正解、イは「左」・「左側」・「ひだり」・「ひだりがわ」を正解としました。
14	炎	火焰土器の国-p4、ガイドブック-p1
15	d	火焰土器の国-p4・29・111 aの亀ヶ岡式土器は縄文時代晩期の土器、bの三仏生式土器は縄文時代後期中葉の土器です。cの岩野原式土器は、研究史において、馬高式土器の一部に対して付けられた呼び名ですが、現在は使われていません。
16	b	火焰土器の国-p86 十日町市笹山遺跡出土。口縁部の把手に三角形土版が貼り付けられています。把手を横から見ると獣のようでもあり、とてもユニークな土器です。
17	a	日本遺産ガイドブック-p30、テキスト I -p16(147) 土偶内部にみえる横線は粘土紐を積み上げた輪積み痕です。縄文土器と共通するつくり方で、馬高遺跡出土の大形土偶「ミス馬高」をはじめとする他の土偶や、三角形土製品とは大きく異なっています。
18	b	火焰土器の国-p86、テキスト II -p23 沖ノ原遺跡や道尻手遺跡など津南町内の遺跡から出土する土偶は、顔がハート形に縁取られる特徴があります。
19	d	火焰土器の国-p18 dの釈迦堂遺跡からは1,116点に及ぶ土偶破片が出土しています(ちなみに全国最多は青森県の三内丸山遺跡とされます)。bの道尻手遺跡、cの吉野屋遺跡は、新潟県内における土偶出土点数の双璧で、ともに100点以上を数えます。aの三重県粥見井尻(かゆみいじり)遺跡からは、日本最古級、縄文時代草創期の土偶が1点出土しています。
20	a	火焰土器の国-p112 火焰型土器・王冠型土器・三角形土製品はほぼ同時期の道具です。一方、aの土製耳飾りは縄文時代中期から晩期にかけての長い期間つくり続けられています。
21	d	テキスト外 cの姫川はヒスイの産地です。bの星ヶ塔は、著名な黒曜石原産地の一つで、多数の黒曜石採掘坑が確認され、国の史跡に指定されています。
22	c	テキスト外(『最古の信州ブランド黒曜石』 長野県立歴史館、平成30年9月刊行など) 星ヶ塔も、問21の星ヶ塔同様、著名な黒曜石原産地で、国の史跡に指定されています。黒曜石の採掘坑が多数確認され、一番深いものは深さ約5メートルとされています。
23	c	テキスト I -p24(155) aは三十稲場遺跡出土の指輪状石製品、bは馬高遺跡出土の大珠、dは馬高遺跡出土の石鏃です。
24	a	テキスト外 bは馬高遺跡出土の大珠、cは馬高遺跡出土の滑車形耳飾、dは馬高遺跡出土の石鏃です。問23と24は問題の写真が同一でしたので、お互いがヒントになっていました。
25	c	テキスト外 縁には二次加工によって刃がつけられています。ツマミが作出されるのが特徴で、ここに紐を固定した跡が残るものもあることから、携帯用の万能ナイフだと考えられています。
26	b	テキスト I -p21(152)

27	d	<p>火焰土器の国-p43</p> <p>分析の結果、非常に純度の高い銅が使用されており、彼らが高度な精錬技術をもっていたことがわかっています。</p>
28	魚沼市／津南町	<p>日本遺産ガイドブック</p> <p>信濃川火焰街道連携協議会は新潟市・三条市・長岡市・十日町市・魚沼市・津南町によって構成されています。「うおぬまし」・「つなんまち」も正解ですが、「魚沼」・「津南」と、市・町を記入していない場合は不正解です。</p>
29	d	<p>日本遺産ガイドブック-p1</p> <p>p1掲載の地図を見ると、aの十日町市は長野県に接していることがわかります。bの新潟市・cの長岡市は日本海に接しています。</p>
30	c	日本遺産ガイドブック-p37
31	段丘	日本遺産ガイドブック-p3、日本遺産ストーリー
32	b	<p>日本遺産ガイドブック-p9・26、テキストⅡ-p27・28</p> <p>bの荒川は山形県の大朝日岳を水源として新潟県胎内市で日本海に注ぐ川で一度も信濃川と交わることはありません。環境省の『平成の名水百選』に選定される清流です。</p>
33	d	テキストⅡ-p18
34	草創	<p>テキストⅠ-p1(132)</p> <p>「そうそう」も正解ですが、「草創期」・「そうそうき」は不正解です。</p>
35	中	<p>テキストⅠ-p2(133)</p> <p>「ちゅう」も正解ですが、「中期」・「ちゅうき」は不正解です。</p>
36	b	<p>テキストⅡ-p5～6・17・18</p> <p>bの小瀬ヶ沢洞窟遺跡は、縄文時代草創期の遺跡です。</p>
37	d	<p>テキストⅡ-p14・18・27</p> <p>aの五丁歩遺跡は高速道路法線建設工事、bの清水上遺跡は高速道路法線及び堀之内IC建設工事、cの岩野原遺跡は道路盛土用の土取工事に伴って発掘調査が実施されています。dの川久保遺跡は高速道路建設ではなく、国道17号線改修工事や河川改修工事に伴って発掘調査が実施されています。</p>
38	d	<p>テキストⅡ-p23</p> <p>cの岩野原遺跡では、縄文時代後期の集落から、小形の石皿にのった状態のクッキー状炭化物が出土しています。</p>
39	d	<p>テキスト外</p> <p>aの沖ノ原遺跡は昭和53年(1978)、bの耳取遺跡は平成27年(2015)、cの馬高遺跡は昭和54年(1979)、に国の史跡に指定されています。dの笹山遺跡は国宝が出土した遺跡ですが、国の史跡には指定されていません。</p>
40	c	<p>日本遺産ガイドブック-p36</p> <p>津南町には、平成31年(2019)3月現在、堂平遺跡出土の火焰型土器モニュメント2基(国道117号線清津大橋ポケットパーク・堂平集落観音堂脇)、沖ノ原遺跡出土の火焰型土器モニュメント1基(津南観光物産館駐車場)が設置されています。</p> <p>信濃川火焰街道連携協議会では、平成31年度、新潟市・長岡市・魚沼市・十日町市・津南町に設置されている火焰型・王冠型土器モニュメントをめぐるスタンプラリーを計画しています。詳細が決まり次第、HP「日本遺産 火焰型土器」にてお知らせする予定です。</p>
41	c	日本遺産構成文化財、日本遺産ガイドブック-p2

42	a	<p>テキストⅡ-p12</p> <p>昭和30年(1955)栃倉遺跡の発掘調査で、日本海側諸県で初めて、竪穴住居跡の全体が発掘されました。竪穴住居跡の形状や、炉跡、柱穴の配置などを確認し、貴重な発見例となりました。</p>
43	ア:接着/イ:アスファルト	<p>日本遺産ガイドブック-p6</p> <p>アは「せっちゃく」も正解ですが、「接着剤」・「せっちゃくざい」は不正解です。</p>
44	b	<p>テキスト外</p> <p>中村孝三郎は長岡市立科学博物館初代考古部長として、長岡のみならず新潟県の考古学をけん引しました。新潟県内で数多くの遺跡の発掘調査を手がけています。昭和31年(1936)に津南町卯ノ木遺跡の発掘調査を実施しています。</p> <p>aの河井継之助は北越戊辰戦争を戦った長岡藩家老で、司馬遼太郎の小説『峠』の主人公。cの藤森栄一は長野県出身の考古学者。dの岡本太郎は芸術家で、縄文土器の美を発見した人物とされます。信濃川火焰街道連携協議会の日本遺産認定ストーリー『「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』のタイトルは、岡本太郎が縄文土器に衝撃を受けて「なんだ、コレは！」と叫んだというエピソードにちなんでいます。</p>
45	b	<p>テキスト外</p> <p>押型文は、丸い棒状の軸に文様を彫り入れ、それを器面に回転させて連続的な文様をつける施文手法で、特に縄文時代早期に流行しました。卯ノ木遺跡は押型文土器出土遺跡の代表例です。cの爪形文は爪や半截工具を刺突して半円状の文様をつける手法で、縄文時代草創期の他、縄文時代中期前半にも見られます。新潟県における爪形文土器の代表例は、阿賀町小瀬ヶ沢洞窟遺跡や長岡市西倉遺跡、津南町卯ノ木南遺跡です。貝殻状文と呼ばれる文様はありません。</p>
46	c	<p>テキストⅠ-p8(139)</p> <p>笹山遺跡出土深鉢形土器の国宝指定が平成11年(1999)。その翌年の平成12年(2000)から開催されていますので、今年で20回目となります。</p>
47	a	<p>テキストⅡ-p4・26</p> <p>aは福井県の若狭三方縄文博物館の愛称です。bは津南町農と縄文の体験実習館、cは新潟市歴史博物館、dは新潟市文化財センターの愛称です。</p>
48	a	<p>聖火台アピール宣言</p>
49	火焰型土器	<p>聖火台アピール宣言</p>
50	d	<p>日本遺産ストーリー、日本遺産ガイドブック-p4</p>